

経営健全化方針に基づく取組状況（令和3年度）

○法人名

太平山観光開発株式会社

○経営健全化方針を策定した理由

- ・秋田市から借り入れた債務が主な要因で、債務超過団体となっている。
（令和3年度末残高 48,000千円）
- ・経営状況において、平成18年度以降黒字決算であったが、平成29年度は、暖冬少雪によるスキー場収入の減少等により赤字決算となった。

○財政的リスク状況

	平成29年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算
債務超過額（千円）	53,901	5,888	0
	目標達成年度 （令和4年度）		
	0		

○主な取組状況（令和4年3月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

新型コロナウイルス感染症予防対策を継続しながら指定管理施設の管理運営に努めたが、施設利用者の利用自粛等によって、上半期の利用料金収入および自主事業売上が感染症の影響を受けていない一昨年度と比較して大きく減少した。

減収に伴う損失額を減少させるため、管理経費の削減と支出抑制を実施したものの、減収額が大きく、上半期の傾向等から推計したところ、資金減少により次年度の事業運営に支障を来すことも想定されたため、秋田市へ損失状況を報告し、協議により上半期の利用料金収入の減少補てんとして指定管理料の増額支援を受けた。

下半期の当期事業は、幸いにも雪に恵まれ、スキー場や除雪事業収入が当初計画を超えたことなどから、債務超過を解消するまでに至った。

主な取組状況は、次のとおりである。

・指定管理事業

感染症予防対策を講じながら、施設の管理運営を実施した。
利用料金収入は、一昨年比で約7百万円減少した。

・自主事業

感染症予防対策を講じながら、飲食・売店等の事業を実施した。
自主事業売上は、一昨年比で約57百万円減少した。

・事業共通

管理経費の削減と支出抑制により一昨年比で約40百万円削減した。

- ① 人件費は、退職者不補充対応により一昨年比で約4百万円削減した。
- ② 営業消耗品費は、利用者の減少により一昨年比で約1百万円削減となった。
- ③ 販売促進費は、広告・催事の中止等により一昨年比で約24百万円削減した。
- ④ 一般管理費は、福利厚生費、備品費などを一昨年比で約11百万円削減した。

【地方公共団体による財政的リスクへの対処のための対応】

- ・「太平山観光開発(株)の経営健全化に関する検討会議」を開催（令和3年度9回）し、経営状況の把握と課題の解決に向けた方策を協議している。

- ・令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う利用自粛等により、施設利用料金収入が減少したため、上半期の損失分について指定管理料を増額した。

○法人の財務状況（貸借対照表から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算
資産総額	82	110	111
（うち現預金）	55	88	93
（うち売上債権）	5	1	2
（うち棚卸資産）	6	3	3
（うち固定資産）	16	18	13
負債総額	136	116	97
（うち当該地方公共団体からの借入金）	84	60	48
純資産総額	▲ 54	▲ 6	14

（損益計算書から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算
経常収益	619	536	554
経常費用	626	493	526
経常損益	▲ 7	43	28
経常外損益	0	▲ 14	▲ 8
当期純損益	▲ 7	29	20